

## 第四回 国土のモニタリング研究会議事概要

1. 日時 平成15年1月24日(金) 15:00～17:00
2. 場所 3号館11階共用会議室
3. 出席委員 森地座長、石田委員、佐藤委員、瀬古委員、恒川委員、中村委員
4. 議題

- (1) 国土のモニタリングの実施と分析について
- (2) 国土のモニタリング計画の検討について
- (3) 国土のモニタリングデータ提供システムのあり方について

### 5. 主な意見

#### (1)国土のモニタリングの実施と分析について

##### 恵み豊かな自然の享受と継承、土地利用の動向

- ・ 当初、モニタリングの3つの方向性として、基本政策部会の展望の5つの視点から、GDの戦略の進捗状況から、基礎的なモニタリングから、との説明があった。モニタリングの各分野がこの3つにどう対応しているかクリアにすべき。
- ・ GDの多自然居住地域創造の観点から、自然の側がどう変質してきたかという資料だけでなく、人と自然との関係についても検討すべき。
- ・ 各地域が自立して負荷を与えないような国土にしていくという観点で、自然環境関連の指標を地域別に見たらどうなるか興味がある。
- ・ 自然環境の分野で、地域的に見るデータが少ない。環境基本計画は山地自然地域、里地、平地という地域区分があるが、国土の環境についても、山の中、農林地を中心とする里地の地域、都市部に分けたデータがあるとよい。
- ・ 景観については、GDや最近の土地利用の計画の分野で重視されており、指標化しにくいテーマではあるが、訴えるものも大きい。
- ・ モニタリングすべきことを並べた上で、指標によってデータ制約上どのような困難があるかということを整理してほしい。

##### 国土の安全・防災の動向 他

- ・ 日本の都市の安全度が低下していること、地方都市へ犯罪が拡散していることなど、さまざまな傾向があるので、総論として「日本の安全」について応えられるデータがあるとよい。
- ・ 「安全」の分野で、自然災害を想定したものしか無いが、日常的には交通事故の問題が気になる。
- ・ 「安全」については、事実を整理するだけでなく、不安感とか意識とかの調査のようなものをうまく使ってみるとよい。

#### (2)国土のモニタリング計画の検討について

- ・ 各項目について、地域別に分野横断的に見ていくと、各地域における課題が

見えてくると思う。地域区分としては、自然地域、農林地帯など目的別に見ると、東北地方、関東地方などブロック別に見ていく2通りがある。

- ・ 京都議定書が発効すると、現在の活動のペースを大幅に軌道修正しなければならないが、今後の国土計画の大きな課題として、最適規模の都市構造、エネルギー消費、吸収源としての森林整備等をどうするか考えるべき。
- ・ 豊かな生活を支える資源として、自然については触れられているが、人工的に作られた文化や芸術の指標についても検討してほしい。
- ・ これまで国土計画で出てきた定住圏や一日・半日交流圏などは、もっと明示的に出てきてよいと思う。

### (3)国土のモニタリングデータ提供システムのあり方について

- ・ 地方公共団体や主要各国のデータも連携・活用していくべき。
- ・ 既存の国の機関のデータストックの利用だけでなく、多自然居住、美しい国土など、国土計画に必要なデータストックを「作る」観点も考えてみては。